

その十三

「古戦場公園みんなでやらんかい(会)」

古戦場公園再整備事業



市民ワークショップニュースレター



- ◆日 時：令和5年2月11日【土】
- ◆場 所：長久手市岩作石田地内古民家
- ◆参加者：31人
- ◆時 間：午前10時から午前11時40分まで

メニュー

- 1 ふりかえり
- 2 古民家の活用方法についての意見交換
- 3 今後の予定について



1 【ふりかえり】

令和4年度に行った、全3回のワークショップの参加者（学生や外国人）から頂いた色々な活用提案やご意見について内容を説明しました。

3回のワークショップを通して、季節ごとのイベントやお茶を楽しめるカフェ等をやってみたい。土壁などの自然の素材を使って建てていて興味深かった。などなど、様々なご意見ご感想を頂きました。詳しくは各回のニュースレターを御覧ください。



これまでのワークショップの写真を飾りました。



↑過去のニュースレターはこちら

もうすぐひな祭りということで、ひな人形とおこしもの型を古民家に展示しました。おこしものは実際に炭火で焼いて秘伝のタレで味付けし、参加者の皆さんにふるまいました。



2 【古民家の活用方法についての意見交換】

これまでのワークショップの意見も踏まえて3つのテーマで意見交換を行いました。

●古民家でやってみたいこと

- ・餅つき
- ・季節ごとの日本伝統行事（ひな祭り、端午の節句、七夕など）
- ・イベントに子ども達を引き込んで、郷土の歴史を伝承していきたい。
- ・薪割り体験
- ・あえて電気なしでの宿泊体験
- ・和カフェ（土日限定でもいい）
- ・土壁塗り体験



●古民家の残したいところやまわりに整備したいもの

- ・クドで炊いたご飯は味が全く違うので、クドを作ってもらいたい。
- ・すりガラス、飾りガラスは貴重なので残してもらいたい。
- ・警固祭り、前熊の山車、棒の手などを学べる場所があるといい。



●古民家の保存活用に対する疑問点や問題について

- ・古民家をなぜ古戦場公園に移築するのか。古戦場公園と古民家のつながりが無いのでは？
- ・古民家を誰がどのように管理するのか考えるべきではないか？
⇒建物は業者に管理してもらい、市民の皆さんにはソフト面で協力をお願いしたい。
- ・古民家は茅葺きだが、移築後はどうなるのか？
⇒茅葺きは建築基準法的に再現できないが、建物内部から天井を見た際に、元は茅葺きであったということが分かるような見せ方をしたい。



愛知工業大学杉野先生

古民家をどの時代に復元（建築当初の江戸時代後期か長久手村に移築後の明治期）するかによって、今後の地域の皆さんの活用のしやすさが変わってくる。明治期の復元は、古民家の特徴を残しつつ、活用がしやすい形になる。古民家を残して活用していくなら、今後の地域の皆さんの交流の拠点とし、人と人とのつながりの輪の広がり結びつけていって欲しい。

3 【今後の予定について】

令和5年度に、古民家の解体工事を予定しています。市民の皆さんにも、解体工事の一部作業に御協力を頂きたいと考えています。

今後、『広報ながくて』やホームページなどでお知らせしていきます。